

次世代に伝えるべきもの

読谷中学校

三年六組

宮城

茉南

「いくさーせーならん」

今から、約69年前。こんなにも美しい島で戦争が行われました。唯一の地上戦となり、たくさんの尊い命がうばわれました。そして、今でも、戦争の傷跡に苦しんでいる方達がたくさんいます。

あなたは、戦争が行われている時どのような事がおきていたかわかりますか。「戦争反対」というと非国民とよばれ、すべてはお国のためだと教えられたのです。人々の命より「国」が大切だったのです。また兵士は「お母さん、ありがとう」といいながら死んでいきました。このような話は、ほんの一部にすぎないのです。

戦争は恐ろしいもので、二度としてはいいけません。ですが、なぜ、戦争体験者でもない私達に、戦争の悲惨がわかるのでしょいか。それは語りべという大きな存在があったから

です。戦後生き残った生存者達は、戦争の事は思い出したくないと戦争当時の事はほとんど誰も話さなかったといいます。しかし、子や孫に同じような思いを二度とさせたくないとい、閉ざしていた口を開き必死に伝えたのです。どんな思いで家族の死を認めただのしょう。どんな思いで今まで生きてきたのしょう。どんな思いで戦争はやってはいけないと訴えかけたのしょう。血のにじむようなかっとうの中、訴えつづけてくれた人がいたか

ろこそ、現代の「平和」を実現する事ができていると思います。

「語りべ」の存在は、私達沖縄の人々が「平和」に暮らし続けるための原点ではないのしょうか。

私達の現在の平和は過去の人々の苦しみのうえに成り立っています。それなのに、日本はまた、同じあやまちを繰り返そうとしていきます。日本はこんなにも苦しんだ事を忘れたのしょうか。

そのあやまちとは、憲法第九条の改正だと私は思います。私は、憲法第九条の改正には反対です。改正した憲法第九条は、やむをえない場合は、軍隊を出動するという内容である。とテレビで解説しているのを見ました。このままでは、他国に、日本に対して何をしてもいいと思われろという理由で改正を試みるとききました。もし、どこかの国が日本を攻めてきたとします。日本は、やられると思いい軍隊を出動させました。それが、改正した憲法のやり方です。日本を助けるためには、やむをえない行動だと思ふ人もいるかもしれませんが、しかし、これは「やりかえし」の行為で戦争がはじまる一歩でもあります。どんな事をしてもやりかえしてしまえば戦争になります。

また、核不拡散条約に日本が署名しなかつた事にも、私は問題があると思います。本当に日本は「平和」のために国民の声を聞いているのでしょうか。

日本は戦争をしない、武器を持たないと宣言しています。武器を持たないという事は核兵器を持たない事と同じです。しかし、なぜ日本は核不拡散条約に署名しなかったのでしょうか。それには、アメリカという日本にとってはいなくてはならない国がいたからです。アメリカは、核兵器をたくさん保持しています。日本が署名してしまえば、アメリカを批判する事になります。そのため日本は、平和を維持するよりも、アメリカとの仲を優先しました。署名しなかった事で、戦争をしないと宣言していた日本は世界の人々の期待を裏切りました。唯一の被爆国であるにもかかわらず。

平和を維持するという事はとても難しい事です。現在、日本では戦争体験者の方々はほとんどいなくなっています。いずれは、戦争当時の話をする人もいなくなります。次は私達が次世代へと私える語りべとなる番です。今まで、平和へと導いてくれた語りべの

努力を無駄にしないよう一生懸命になっ
て訴えかけようと思います。

戦争は絶対に絶対に反対です。非国民とよ
ばれるような事があっても戦争には反対しま
す。

私はこの美しい島にうまれてきた。うちな
んち^ちとしてほこりをもち伝えます。二度
としてはならないことをミミミ
っいくさーせーならん